

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 11 月 6 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (11/6 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	30.5	106.6 kPa abs	A系： 0.97	vol %
		給水系：約 2.9 m ³ /h			B系： 0.97	vol %
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.7 m ³ /h	42.9	6.50 kPa g	A系： 0.08	vol %
		給水系：約 1.7 m ³ /h			B系： 0.07	vol %
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.6 m ³ /h	42.9	0.22 kPa g	A系： 0.21	vol %
		給水系：約 1.6 m ³ /h			B系： 0.19	vol %

*絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【1号機】・11/6 16:15 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.9m³/hから約 3.0m³/hに調整。炉心スプレイ系からの注水量は約 2.0m³/hで継続。

【2号機】・11/6 16:15 原子炉への注水量の変動が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.7m³/hから約 2.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 4.7m³/hから約 4.5m³/hに調整。

【3号機】・11/6 16:15 原子炉への注水量の変動が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.5m³/hから約 2.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量は約 4.6m³/hから約 4.5m³/hに調整。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (11/6 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	20.0
2号機	循環冷却システム	運転中	21.6
3号機	循環冷却システム	停止中	17.3
4号機	循環冷却システム	停止中	30

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

【3号機】・11/6 9:53 使用済燃料プール代替冷却システムにおいて、燃料プール内瓦礫撤去の事前調査として、当該冷却系停止時の燃料プール内視認性(透明度)変化を確認するため、同システムを停止(停止時プール水温度:17.5℃)。なお、停止期間は11月10日までを予定しており、プール水温度の上昇率は約0.17℃/hと評価していることから、運転上の制限値65℃に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題はない。

【4号機】・11/5 14:09 使用済燃料プール代替冷却システムにおいて、冬季における凍結防止対策として、2次系循環水に不凍液を添加するため、同システムを停止(停止時プール水温度:約24.0℃)。なお、停止期間は11月6日までを予定しており、プール水温度の上昇率は約0.418℃/hと評価していることから、プール水温度の管理に問題はない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	11/3 10:14 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	11/2 14:17 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (11/6 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H24/10/23～ 1号機サプレッションチェンバ内への窒素ガス連続封入を開始。サプレッションチェンバ内の水素濃度を推定2%程度まで低くするために、連続封入期間は1ヶ月程度を予定。
- ・H24/11/6 2号機原子炉圧力容器温度計については監視温度計1台および参考温度計1台、原子炉格納容器内温度計については監視温度計5台および参考温度計5台で温度監視を実施していたが、原子炉格納容器内については9月19日に格納容器貫通部の格納容器内側に、原子炉圧力容器については10月3日にノズル部に、新たな温度計を設置。その後、当該温度計については、原子炉注水量や外気温度の変動時の挙動、指示の安定性等について確認を行い、良好な結果が得られたことから、11月6日 0:00より、原子炉圧力容器温度については保安規定第138条および143条、原子炉格納容器内温度については保安規定第138条に定める監視計器として運用開始。

以上